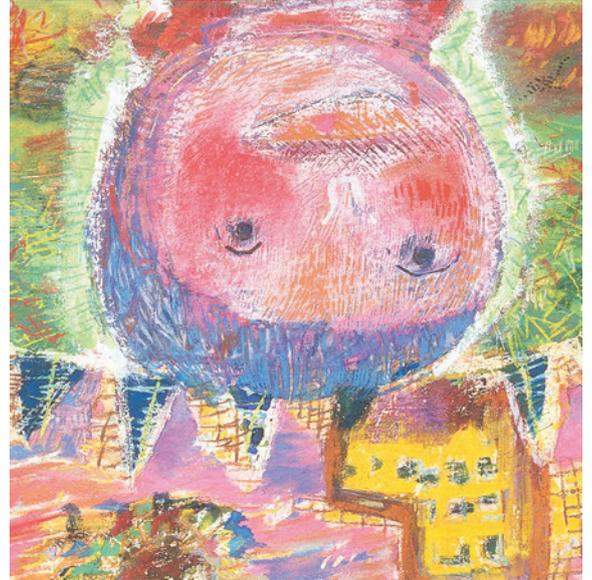


死のうと考えたこともある。
生きていることが「復讐」になると、今は思う。

◎四つ葉インタビュー／第7回：小林勇次さん

絵：太田利三



vol.7

四つ葉通信

認定NPO法人四つ葉のクローバーと支援者を結ぶ小冊子



「四つ葉からい基金」ご支援のお願い
進学や資格・免許の取得など、「子どもたちの未来」を応援していただくませんか？ WEBサイトからお申込みできます。
(QRコードを読み込むと、支援サイトに繋がります)

<p>【おぼろげ】 第4月曜日 19:00～21:00 軽食つき</p>	<p>居場所支援・生活スキルアップ 対象：15歳～34歳 無料夕食会</p>
<p>【学習支援】 毎週月曜日 17:00～19:00 軽食つき</p>	<p>就職準備・スキルアップ支援 対象：15歳～34歳 高卒認定や資格取得のための無料学習会</p>
<p>【ほっとスポット】 毎週水曜日 12:00～16:00 軽食つき</p>	<p>居場所づくりイベント事業 退所準備・個別対応ができる場の提供 退所者同士の集いの場、情報提供</p>



メニュー：コーヒ- 300円 / 紅茶 300円 / ホットケーキ 300円
竹の子餃子 300円 / 焼き飯 400円 / から揚げ 200円

【みんなサロン】
第1月曜日
11:00～17:00

地域の声をつなげたい

夢コート1階の四つ葉カフェで開催

ふらっと利用いただけます

◎四つ葉カフェ

◎四つ葉カフェ
夢コート1階の餃子屋一角に
カフェスペースを設けました!!



クローバードリームライブ 2018、今年も大盛況でした!!

今年で4回目の開催となったクローバードリームライブ。毎年たくさんの支援者、関係者たちが全国から集まってくれますが、今回も大いに盛り上がりました。当日はNHKテレビの取材カメラも入り、例年以上に華やかなムードに包まれたような気がします。今回から初めて、「社会的養護の必要な子供たちに地域ができること」と題する基調講演、トークセッションをイベントに加えしました。四つ葉のクローバー設立時から関わって下さっている自立支援の第一人者・高橋亜美さんをゲストにお迎えした基調講演は、関係者にも大好評。社会的養護の必要な子供たちに、地域が出来ることをみんなで考えるきっかけとなったようです。

もちろんドリームライブ恒例の「若者たちの語り」もありました。舞台にあがったとたん視線恐怖症に陥ってしまった良輔くんも、前号の「四つ葉通信」で壮絶な過去を語ってくれた MISAKI さんも、二人とも一生懸命話してくれました。参加者全員の暖かい励ましの拍手が、これから社会に旅立っていく彼らを大きく成長させることでしょう。第二部は、打って変わってみんなで楽しく参加できるライブコンサート。今回は滋賀出身のアーティスト、JERRY BEANS のメンバーと Yokko さんに出演いただきました。当日は雪の舞う寒さに加え、運悪く電車事故も重なるという最悪のコンディションでしたが、参加いただいた方々には本当に感謝申し上げます。私たちの思いを仲間たちに伝えていくために、これからもドリームライブを継続していきます。どうぞよろしくお祈りします。
(理事長：杉山真智子)

【四つ葉 NEWS】

◎「四つ葉通信第2号」に登場してくれた、ゆうこさん（仮称）。アルバイトを2つ掛け持ちして学費を捻出しながら、四年制大学に通う頑張り屋さんでした。彼女から「無事に大学を卒業し、就職も決まった」という嬉しい知らせが届きました。

「お久しぶりです！ 報告があります！ 卒業が無事決まりました！ 本当に今まで色々な面で支えて下さったおかげです。いくら感謝してもきれません。四つ葉での生活があったことで、生活の面でも精神的な面でも成長できました。みなさんのサポートのおかげで集中して勉強とバイトに励むことができ、無事に卒業もできました！ 本当に今までありがとうございました！」

卒業 & 就職おめでとう。これからあなたの夢を、1つひとつ実現していってほしいと思います。そしていつかきっと、後輩たちを応援してくださいね。若者たちからのこんな報告が、私たちは一番嬉しいです。



死のうと考えたこともある。 生きることが「復讐」になると、今は思う。

小林勇次さん (20歳)



まだ二十歳とは思えないほど、落ち着いた雰囲気の小林勇次さん。彼のこれまでの人生は、波瀾に満ちたものでした。愛情を注いでくれた祖母や母が亡くなると、義父や叔父から冷酷な仕打ちを受け、ホームレス状態にまで陥ったのです。「大人たちがまだ完全には信用できない」と語る彼ですが、同じような体験をしてきた仲間たちの存在が、少しずつ彼の心を前向きにさせています。

**祖母が亡くなってから、
義父からの虐待が始まった。**

義父の虐待が始まったのは、一緒に住んでいた祖母が亡くなってからのことですね。それまでは母と祖母の三人暮らし。小さい頃に父と別れた母は、僕が小学校3年生の時に再婚し、義父との生活が始まりました。最初のうちは、普通に優しいお父さんだったんですよ。でも祖母が亡くなってからは、態度が急変しました。しょっちゅう僕のことを怒鳴つ

たり、平手で殴るようになりました。おもに成績のことが多かったですがね。僕は勉強があまりできなかったものですよ(笑)。でも今考えると、勉強が嫌いになったのは母が再婚してからのような気がします。子どもながらに生活環境が変わって、悩みがあったのかもしれない。暴力は、それからずっと続いていました。義父は体格も良く、とてもかなう相手ではありません。一度中学の担任に相談したこともあったけど、当時は学校が家庭問題に踏み込みにくかったのでしょう。真剣に相談したのに耐えるしかないと言われて、本当にショックでした。

**義父からも叔父からも
続いた金銭的な搾取。**

母が癌になったのは、僕が高校2年のときです。余命半年と宣告された義父と僕は交代で病院に泊まり込んで看病しました。治療費がかさんだので、経済的にも苦しかったのだと思います。母が亡くなるとすぐ、僕は叔父のところに預けられたのです。かといって、叔父のところも裕福だったわけじゃありません。僕を引き取る代わりに、毎月2万円渡すのが条件だった。アルバイトで生活費を稼いでいたのですが、体も辛くなって、つい仕事も休みがち。お金を払えない月が増えていきました。

お金を入れなければ、それは即「借金」と見なされます。叔父からは肉体的な虐待を受けたわけじゃないけど、金銭的なプレッシャーは半端ない。これはもう、暴力の一種だと今では思います。引き取る上での条件を守ら

ないわけだから、叔父さんは僕の通帳を取り上げて、ついにまた義父の元に送り返したのです。

**マンションの共同トイレで
眠るホームレス状態で**

義父の家に戻ってからの生活は、さらに悲惨でした。一緒に暮らす条件だったのは、最低限の光熱費として毎月1万5千円入れること。もちろん食費は含まれません。自分の食べるものは、自分で買ってこないダメ。バイト代が足らずにお金を入れられない月が続くと、「金輪際、電気も水道もいっさい使うな」と命令されました。でも、現実的にはそんなの不可能ですよ。一度だけ水道に触ったことが義父にばれ、鍵をおいて出て行けと宣告されました。

その時、僕はまったくの一文無し。本当に行くところがなかったんです。だから家を出されると、マンションの1階にある共同トイレで2夜を過ごしました。障がい者用トイレの片隅に座り込んで寝たんです。小さい頃から義父のことが怖かったので、「出て行け」と言われたら従うしかなかったです。

翌朝、トイレから高校に行き、先生に「ホームレスになっちゃった」ことを告げると、今度はすぐに対応してくれました。一緒に暮らしのサポートセンターに行き、緊急一時支援シェルターで保護。それから四つ葉のクローバーを紹介されたのです。

**四つ葉の仲間たちの存在が
気持ちを前に向かせてくれる。**

四つ葉に入ってからしばらくの間は、

毎晩のように泣いていましたね。「ほっとした」なんて気持ちには、とてもなれません。今までのことがあるから、ほとんどの大人は信用できないと疑っていました。これまで何回、周りに裏切られてきたことか。自分の状況が、いつ変化するか分からないんです。もちろん、死のうと思っただことは何度もありますよ。でも、さんざんいろんな目に遭わされた上、最後が自殺じゃあ、あまりに理不尽じゃないですか。「それは違うな」と思ったんです。むしろ生きることが、これまでの復讐になると思い直しました。

ずっと自分の殻に閉じこもりがちだった僕が、ようやく前に向かって進めるようになったのは、四つ葉の仲間が存在が大きいかもしれません。ここではみんなの暗黙のルールとして、それぞれの生い立ちについてしゃべらないし、自分からも語りません。でも、どんな過去を背負ってきたのかは、お互いに分かっています。「自分だけがどうしてこんなひどい目に遭ったのか」という考えは、自然となくなっていくまじやう。何がきっかけということはなく、みんなの存在そのものがチカラになっていると感じます。施設長の池上さんも、児童養護施設出身で、僕と同じ境遇の人。気持ちをよく分かってくれる大人に出会えたのは大きいですね。

いろんな人のサポートを受けて、おかげさまで春には就職することができました。四つ葉を卒業して、ついに憧れの一人暮らしです。やっとひとつの夢がかなったという感じかな。僕にとっては唯一の夢だったので、これから新しい目標を見つけないといけない。そのためにも、頑張つて働きます。(聞き書き…戸原一男)